

テクノ・コメンテーター

工学博士 岩田 倫典

(企画制作) 日刊工業新聞社業務局

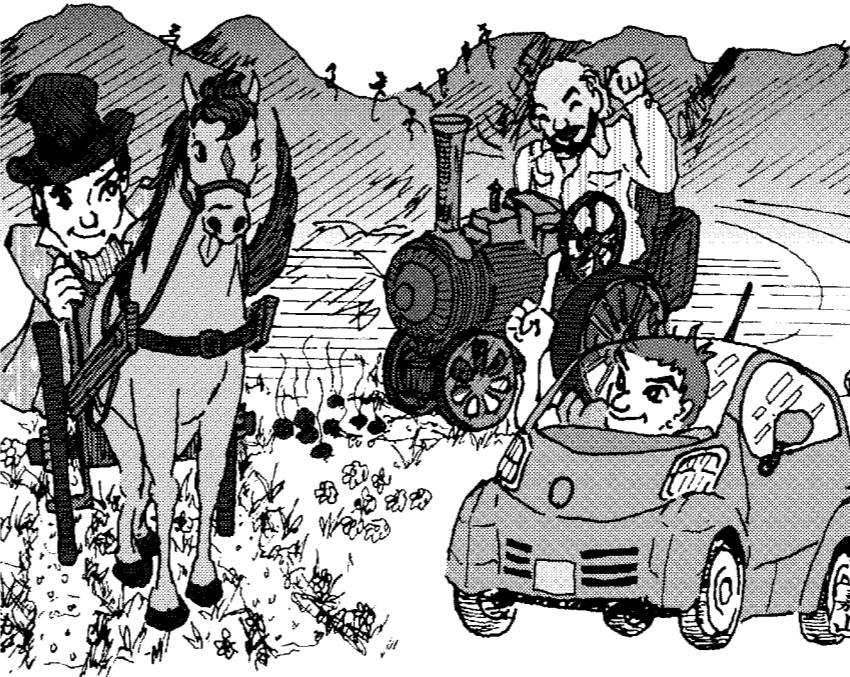
21世紀での新しい轍は…

テクノ
ごぼれ話

119

車レース(パリ・ルーアン間1226キロ)では、蒸気自動車が平均時速18キロで1位となった。しかし、大量的燃料と助手が必要で実用的でないという理由で、ガソリン車に1位になり、サークットが誕生した。レースには、観客だけ人がでたことがないという理由で、ガソリン車に1位のタイヤが現れたのはこの翌年、さらには、電池と車輪用モーターを組み、前輪駆動の二人乗りで、電池で充電してエネルギーを供給するハイブリッドカーを出品する。彼のEVはインボイルモーターを使用した前輪駆動の二人乗りで、電

車では、蒸気自動車が平均時速18キロで1位となった。しかし、大量的燃料と助手が必要で実用的でないという理由で、ガソリン車に1位となり、サークットが誕生した。レースには、観客だけ人がでたことがないという理由で、ガソリン車に1位のタイヤが現れたのはこの翌年、さらには、電池と車輪用モーターを組み、前輪駆動の二人乗りで、電



19世紀末、毎日1250トンの糞と20万リットルの尿を撒く馬車に代わって、自動車が米国ニューヨーク市に登場した。この頃、「馬なし馬車」と言われた蒸気自動車、電気自動車(エムバービル)という新語(オートはギリシャ語からきたフランス語の「自動」)、ガソリン車は、燃料のシェアを3分の1ずつ分けていたという。

「馬なし馬車」に代わって「オートモービル」という新語(オートはギリシャ語からきたフランス語の「自動」)、モービルはラテン語で「動く」

違反第1号として逮捕された。速度に英国のロバート・ダビットソンが製造したというのが通説。EVの同士にフランス・パリ郊外の直線コースで3回行われた。最初の最高時速は60キロ、2回目は70キロ、3回目は砲身を3分の1ずつ分けていたという。

1894年の世界初の長距離自動

ニューヨークで
スタートダッシュ

の意)が紙面を飾り始めた1899年。とはいっても、20世紀初のEVは時速19キロでニューヨーク市を走り、速度

違反第1号として逮捕された。速度に英國のロバート・ダビットソンが

に英国のロバート・ダビットソンが製造したというのが通説。EVの同士にフランス・パリ郊外の直線コースで3回行われた。最初の最高時速は60キロ、2回目は70キロ、3回目は砲身を3分の1ずつ分けていたという。

1894年の世界初の長距離自動

フオード氏のプレゼント

の意)が紙面を飾り始めた1899年。とはいっても、20世紀初のEVは時速19キロでニューヨーク市を走り、速度

を介して電線でつなぐだけのもの。あるいは、20世紀初のEVは時速19キロでニューヨーク市を走り、速度

を介して電線でつなぐだけのもの。

あるいは、20世紀初のEVは時速19

を介して電線でつなぐだけのもの。

あるいは、20世紀初の